



8. 桧山・稲木めぐり

コース案内 **1**～**9**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約6 km

【楽しみ処】

県道東広島本郷線を西へ大畠経由で桧山まで行くと、道路右上に薬師堂があり、その横に薬師丸古墓といわれる天正十五（1587）年の銘がある墓碑が建っている。そこから北側の山林に入っていくと天神神社の参道になる。参道下には平賀氏の家臣である桧山備前の墓が民地の中に建っているが、中世のものではなさそうである。

県道をさらに西に向い稲木川を過ぎると右手の小山には桧山備前の屋敷跡といわれるところがあり、さらにその高台には稲生神社の横の木原家の墓地に行き当たる。幕末の戊辰戦争時、安芸藩の神機隊の指導者であった木原秀三郎の長男木原三郎とその妻の墓が並んでいる。工場のそばの山道を過ぎると国道375号線に出る。それを横切り、稲木の西山地区まで進む。鎌倉時代の末期から南北朝時代にかけてこの稲木で多くの石碑（板碑）を残している行賢という僧がいたことは前にも書いたとおりである。真言宗の西福寺という寺を中心に活動していたと思われるが、西福寺は現在国道沿いに移転している。

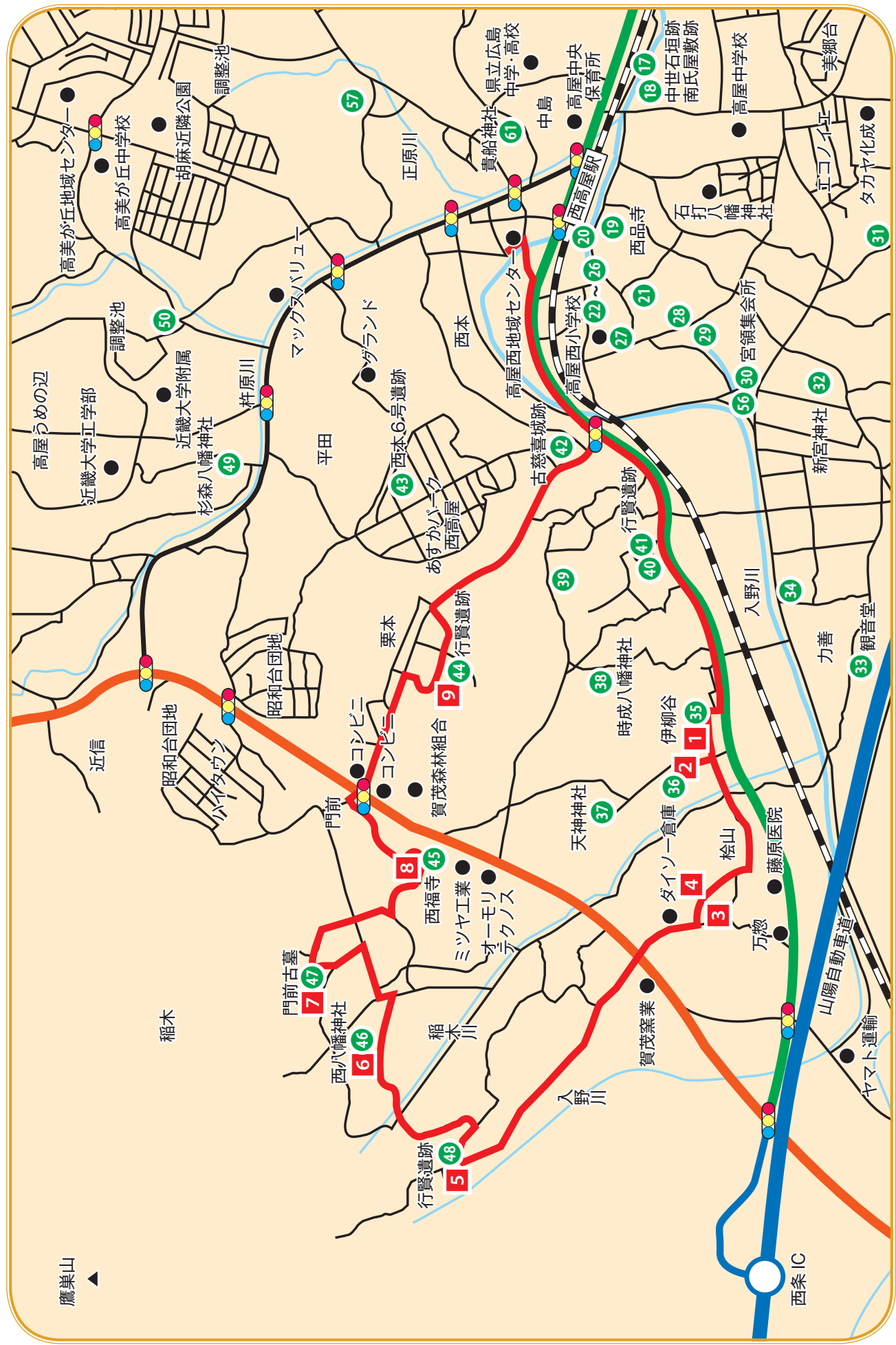
行賢遺跡が多く散在している西山地区の東隣の谷に西八幡神社がある。由来は古く平安時代の天養元（1144）年だということだ。西八幡神社の参道を下ると、鷹巣山の裾野の小高い所に毘沙門堂が見える。その堂の前には五輪塔、宝篋印塔、石仏がバラバラに組まれているが、市内で最大級の五輪塔、宝篋印塔であるらしい。この一帯は室町時代の長福寺跡といわれ、一時京都の相国寺や天龍寺の僧である慶仲周賀の荘園になったこともある。

現在の西福寺境内には、稲木の集会所とともに解剖碑が建立されている。明治21（1888）年賀茂郡中の医師が集められて人体解剖が稲木の西岡清三郎氏宅で行われた。指物大工の中町逸平氏が、自分の死後は身体を解剖して医学の進歩に役立ててほしいと遺言し、かかりつけの医者であった福富町久芳の黒川医師が執刀したということだ。

稲木の栗山には長楽寺跡といわれるところがある。ここにも行賢の銘がある不動明王立像や多聞天立象が地元の人の手でしっかり守られている。



8. 松山・稲木めぐりコース案内 1～9



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 薬師丸古墓（桧山）



薬師堂内



2 桧山備前守の墓



3 稲生（いなり）神社（1）（桧山）



桧山 伊柳谷地区にある。

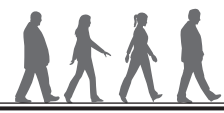
4 木原三郎とその妻の墓（2）



木原秀三郎の父や祖先の墓がたくさんある。
木原秀三郎は、幕末に幕臣勝海舟の塾に在塾中、芸州藩に登用され、「神機隊」を結成し、戊辰戦争で活躍した。彼の墓は広島市にある。



- 1 木原秀三郎の息子 三郎の墓（23歳没）
- 2 その妻の墓（16歳没）



5 行賢関係遺品 (稲木の西山)



僧行賢関係の板碑と思われるものが、この周辺にはたくさんある。(稲木西山)



法華経の偈(げ)が彫られている

右為入蓮 正中二丑
乙十月日 願主僧行
賢(入蓮の供養に
1325年に造立した
もの)



地藏菩薩の背面には
暦応四(1341年)の
銘がある。

廃寺となっているが、西福寺跡といわれている。現在の西福寺は、稲木公民館すぐそばに移されている。その近くには解剖碑もある。行賢は、鎌倉時代末期から南北朝期の前半まで、この地に生活していた僧侶である。

6 西八幡神社(稲木の明神)



西八幡神社の宮司は三好氏。三好氏の祖先は、平安時代の天養元年(1144年)にこの地に来たといわれている。天養元年には、今井氏が杉森神社を、高野山の僧侶信隨が西福寺をそれぞれ創建している。

7 門前古墓(稲木の門前)



廃長福寺跡。長福寺は、室町時代(15世紀初頭)に京都五山 相国寺鹿苑院の塔主であった、慶仲周賀相伝の寺といわれている。東広島市内最大級の五輪塔である。(ただし、石の組み方はバラバラである)



8 西福寺 (稲木)



9 僧行賢関係遺品 (稲木の栗本)



(稲木栗本)
県重要文化財の説明看板



①多聞天立像 ②地藏菩薩 ③不動明王立像
(麿長楽寺跡) (稲木栗本)



9. 白鳥山登山

コース案内 **1**～**10**

【発着地】 高屋西地域センター

【総距離】 約 5 km （ただし比高約 250 m の登山なので距離の割には疲れが出るかもしれないので、体調管理を十分にして出発することが望ましい。）

【楽しみ処】

宮領にあるますやみそ東広島工場の東側にかつては白鳥神社の参道があった。宮領と郷の境界線にあたるこの道は今では山道となっていて、一人では歩かない方がよい。途中には白鳥神社の比較的小さい鳥居がある。江戸時代（宝暦七 1757 年）に建立されたもので、現在残っている白鳥神社の鳥居の中ではこれが一番古いと思われる。

さらに上っていくと山陽自動車道に架かる白鳥橋に出る。それを渡った所に「白鳥社八丁」という大きな丁石がある。それをまっすぐ進めば宮領口からの登山道になる。今回は郷口から登山してみよう。山道に入るといろいろな丁石が目につく。立っているのもあれば、「白鳥社四丁」や「二丁」など横転しているものもあり、整備の必要性を感じる。大きな岩の割れ目に祠があったりして、信仰の山だということが身にしみてわかる。山頂（453 m）からの眺望は素晴らしい。

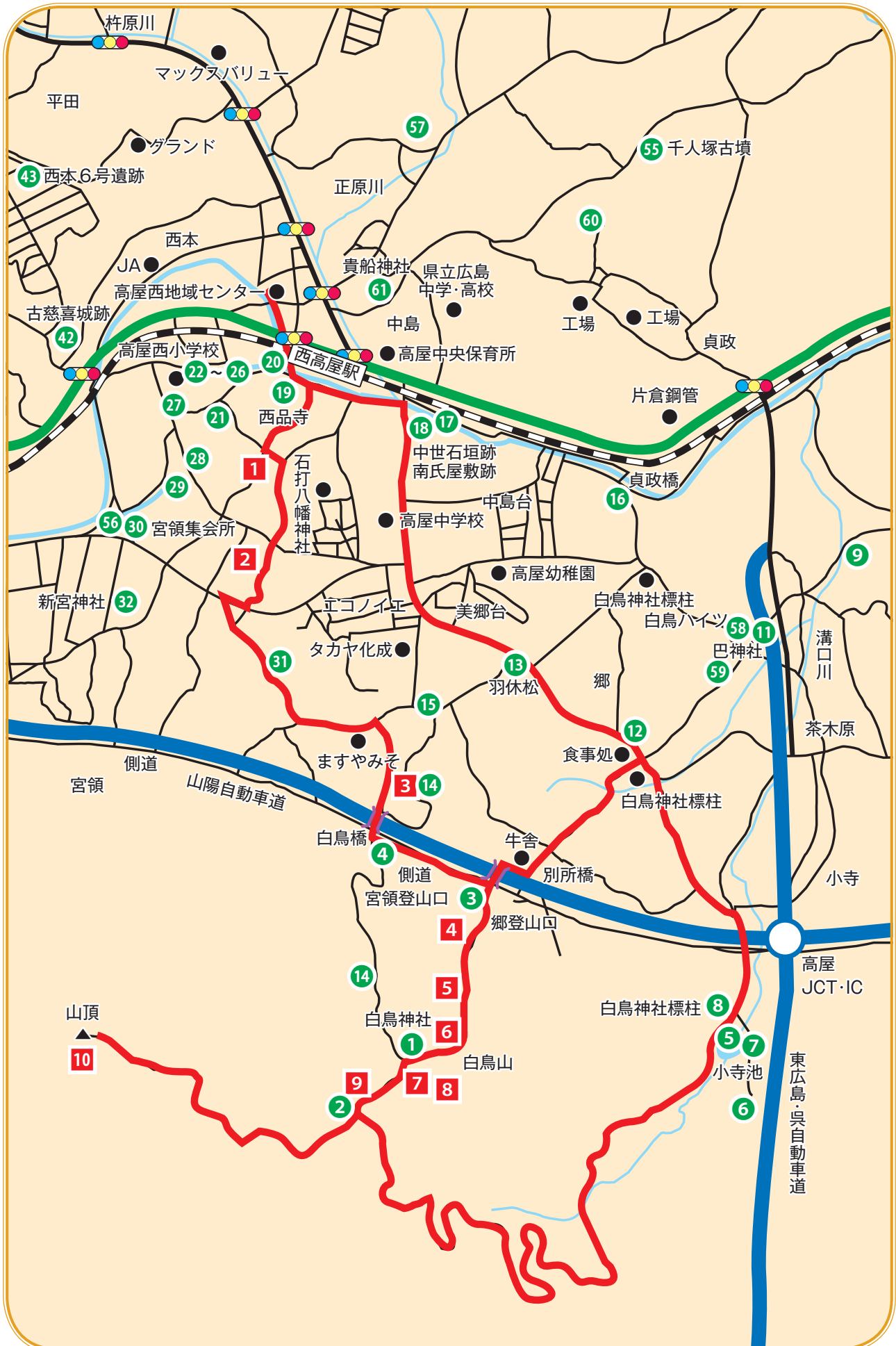
白鳥山山頂に白鳥神社がある。本殿、幣殿、拝殿、神楽殿などがあり摂社として春日神社が祀ってある。

『白鳥神社の由来』

「景行天皇四十三年、天下に詔して諸国に白鳥神社を建てさせ、その時安芸国において建立した社だという。楽音寺蔵「安芸国神名帳」に賀茂郡二位一前として白鳥明神とあるのは当社のことである。往昔は大社にして、社領は宮領村、郷村、溝口村の一円にて六百五十石余あり。また付近に神宮寺、十楽寺、善仏寺、大福寺、山の寺鐘楼跡等があり、本社の別当七坊という。神馬屋敷、馬洗川、油免、巫女屋敷、神子免、垢離取川、土器師、下馬所石、羽休め松等の旧跡もある。天文二（1543）年白市白山城主平賀弘保及び同隆宗が社殿建立をしたという棟札がある。「伝承 郷中に白鳥羽休松あり。この所へ日本武尊が白鳥となって羽を休め給いけるに白犬が吠えたので現在の鎮座地の神山に飛び給う。すると雉子が鳴いたので恐れ給うという。以来、郷村には白犬を飼わず、神山には雉子棲まずという。」（廣島縣神社誌）



9. 白鳥山登山コース案内 1~10



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 神田池（中島西南）



「神田池」後方の山中に、前方後
円墳の跡あり。



西品寺の南側にある。石打神社に関係があるらし
い。神田さんという方が住んでいたらしい。

2 龍神さん（宮領東）



神田池の上の峠を越えた途中、宮領に入ってすぐに
林の中に入るとある。

3 白鳥神社へ行く途中の鳥居



宮領側から登る参道（ますやみそ東広
島工場横の道）であった。

4 白鳥山への道標（白鳥社五丁）



5 白鳥山への道標（丁石）



四丁が倒れていた。



6 大岩の中の祠



由来は不明だが祈りの跡がある。登山道の途中、白鳥神社のすぐ真下にあたる。



祠の大きな石の上から木が生えている。めずらしい。



二拝二拍手一拝の立札がある。



白鳥神社本殿。日本武尊を主神として十柱の神様が祀られている。



白鳥神社由来碑。

7 白鳥神社神殿（郷） 標高 453m



境内にある標柱。
春は桜がきれいである。



8 白鳥神社横にある春日神社



この地点より、好天の日には、四国、瀬戸内海が見られるとのこと。



9 車道の石灯籠



車で登山する時下車後に登る道。地元の方の寄進された灯籠がたくさん並んでいる。トイレ有。



10 山頂の三角点



天気が良ければ、因島大橋が見えるそうだ。



車道途中を西方尾根づたいに行くと、白鳥山系の中では最も高い場所に行ける。

山頂の三角点の地点は、標高524.7m。南を望むと、広島大学の天文台が見える。



10. 宮領・桧山を歩く

コース案内 **1**～**7**

【発着地】 高屋西地域センター

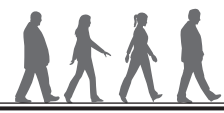
【総距離】 約 5 km

【楽しみ処】

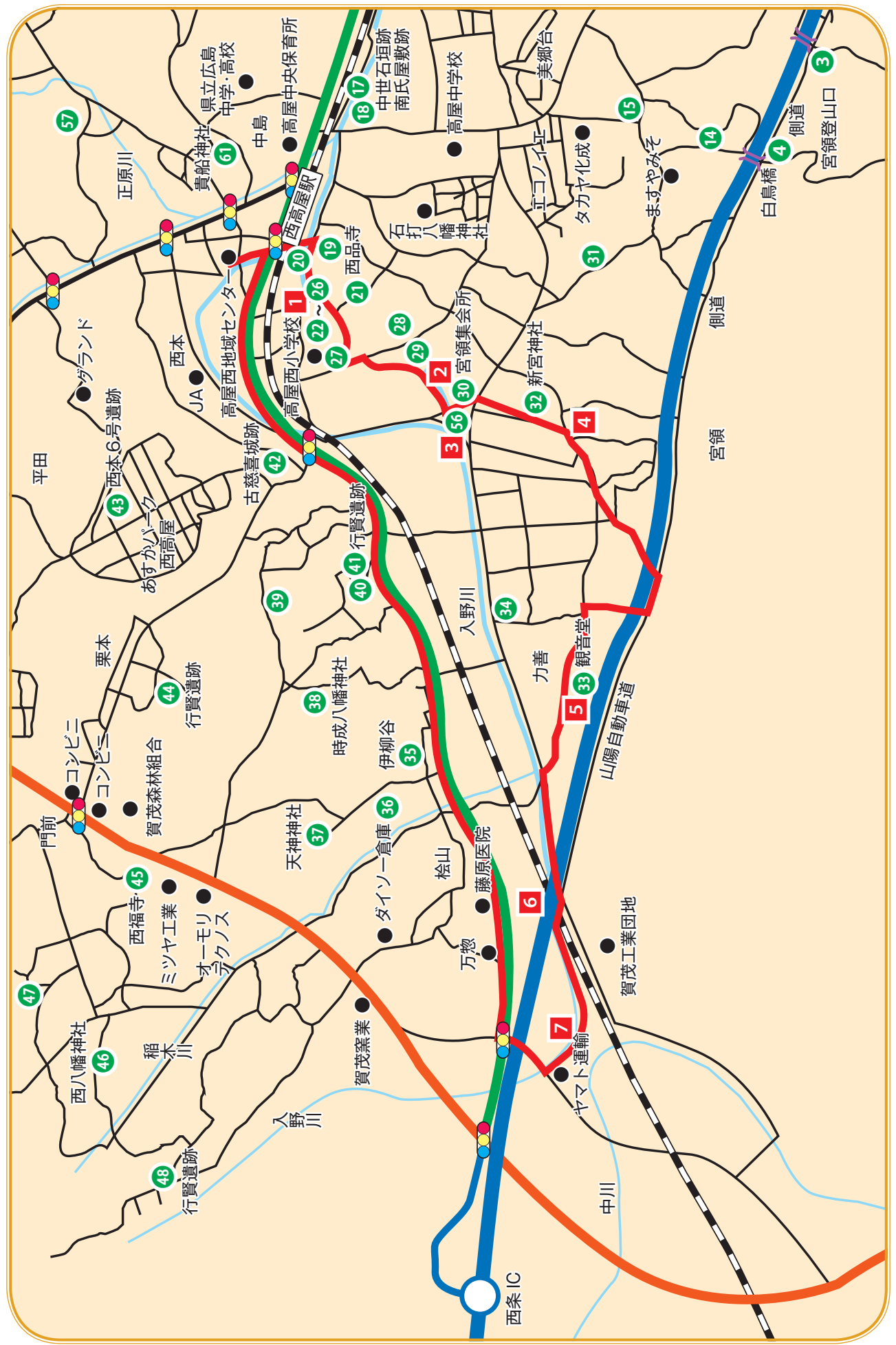
昭和隧道出口のそばを通り高屋西小学校の丘陵を宮領に下りると、隧道入口、宮領集会所の前の「耕地整理記念碑」や「柳田安巳先生之碑」さらにその近くに小さなお地蔵さんが彫ってある石の道標などがある。道を横切って南に進み新宮神社の西側を通過すると「坂田亮造翁頌徳碑」がある。さらに西へ進み少し寄り道をして山陽自動車道をくぐると側道沿いに岡田神社がある。再び先ほどの道に下りて西へ進みと、山裾の木々に隠れてひっそりと小堂が建っている。廃力善寺跡に近年建てられた観音堂。今でも年に3回近所の人たちで仏事が営まれているようだ。堂内の厨子には十一面観音、不動明王、毘沙門天が安置されている。また、享保十年（1725年）に奉納されたという鱈口も天井につるしてある。

入野川を挟んで大畠と宮領の水田地帯が広がり、大畠の丘陵地には時成神社の杜が遠くに見える。元来ここの田圃も排水の悪い所であったが、耕地整理や昭和隧道の建設で昔よりは随分と農作業が楽になったようだ。山陽自動車道を左に見ながら西へ進むと、賀茂工業団地が前方に現れ、その辺りから桧山地区に入る。自動車道の高架と山陽本線が交差する所に、神保浜踏切がある。踏切を渡った所に二つ目の桧山耕地整理記念碑が建っている。その横でおもしろい小さな橋を発見。入野川に架かるその橋には「丸橋・昭和十三年」と書かれているが、橋の向こう側は行き止まり。恐らく踏切への道を高くしたため、この橋が用をなさなくなったのだろう。

入野川沿いをさらに西へ進むと、川は大きく曲がり、いよいよ西条の吉行に入る。川の東側にある食堂は高屋で、ヤマト運輸は西条ということになる。稲木の西山地区を源流とするこの入野川は、急に東に向きを変えて高屋の方へ流れていくのだが、この川のほんの60m西には、山陽自動車道西条インターチェンジの北から流れ出る中川という川があり、この辺りで西へと流れを変えて黒瀬川に接続する。つまり入野川と中川は合流せず、それぞれ東西反対方向に向きを変える分水界になっている所なのだ。県道に出て東に進むと桧山・大畠・中島方面に向かう帰路ということになる。



10. 宮領・松山を歩くコース案内 1~7



■コース案内

●史跡案内看板設置場所



1 昭和隧道

(ア) 出口 (中島)



宮領川下流 (西高屋駅裏側)

3 柳田安巳先生頌徳碑



第10代西高屋村村長。
昭和隧道建設に尽力 (昭和26年)。

(イ) 入口 (宮領)



宮領川上流

4 坂田亮三翁頌徳碑



宮領西地域にある。
立派な教育者であった人物である。

2 耕地整理記念碑



大正2年5月。
宮領集会所入り口にある。

5 昔の力善観音堂





5 力善観音堂内にある仏像三体



6 行き止まりの丸橋

(松山耕地整理記念碑のそば)



5 力善観音堂内の鰐口 (享保 10、1725 年)



7 分水界

6 松山耕地整理記念碑



高屋町と西条町の境界になる道と入野川。

60m西には黒瀬川に流入する中川が北から南に流れている。